

虹色の光を放つ宝石のごとく
家もまた、住もう人に変幻自在

[earnest architects]



starring
WHITE OPAL

虹色に輝くことから希望を意味し、幸せを招く「神の石」として古くから珍重されてきたオパール。
日本へは明治の文明開化とともに入り、アツという間に鹿鳴館に出入りする女性たちの心をつかんだ。
10月の誕生石としても知られるオパールは、今も日本人に圧倒的な人気を誇る。

プレイ・オブ・カラー（遊色効果）――。

それは、オパールに見られる虹色に輝く現象。

しかし、オパールの魅力はそれだけに止まらない。

ハイドロフューン・タイプと呼ばれるオパールは、

石が水を吸い、透明度を増して、異なる「容姿」へと変身する。

そして、自然乾燥の状態にすれば、もとに戻るといふ不思議――。

まさに、変幻自在。

光や水を得て、自ら美しさを自由に演出していく。

さて、ならば、

家もまた、その自在さをまとうたら……。

面白い！

住もう人の思い、感性、知性、こだわり……。

それが家に投影されるのは、あくまで基本。

その上で、家そのものが自ら美を主張する術を身につけたら……。

暮らしはもっと刺激的に、愉しく、豊かになるに違いない。

ほどよい緊張感が与えてくれるやすらぎ、

この家に住むことの誇りがもたらしてくれる落ち着き、

オパールにも似た硬質な輝きが満たしてくれる心のゆとり……。

「普通」とはいささか異なる心地よい高揚感を意識させてくれる家。

七色に輝き、自由に透明度を変化させるオパールのように、

立ち位置によってさまざまな「顔」を見せてくれる家。

石が水を吸うというミステリアスな性質を備えたオパールのように、

型破りな自意識にあふれた家こそが、

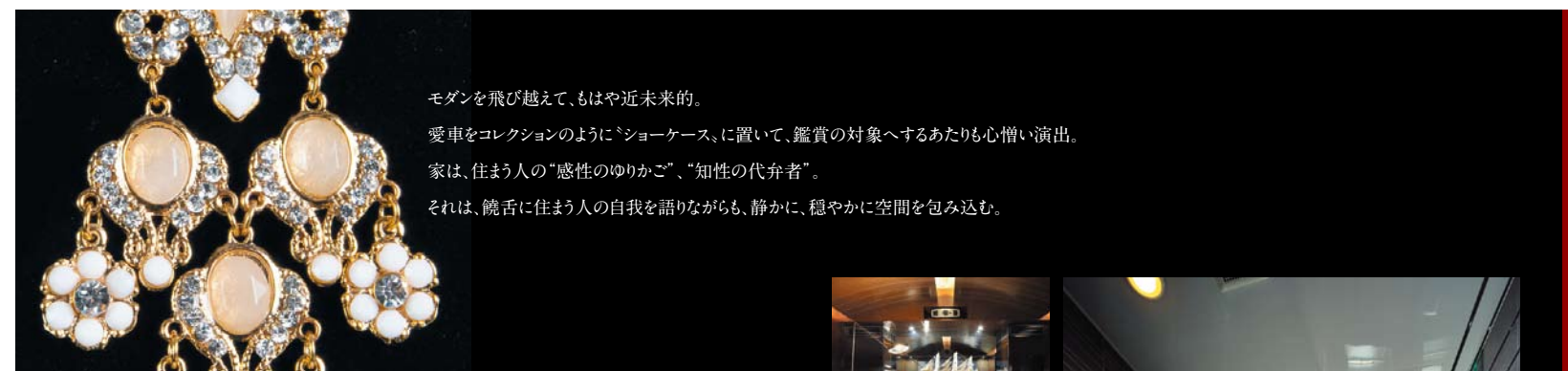
大人の遊び心を刺激し、美意識を満足させる。



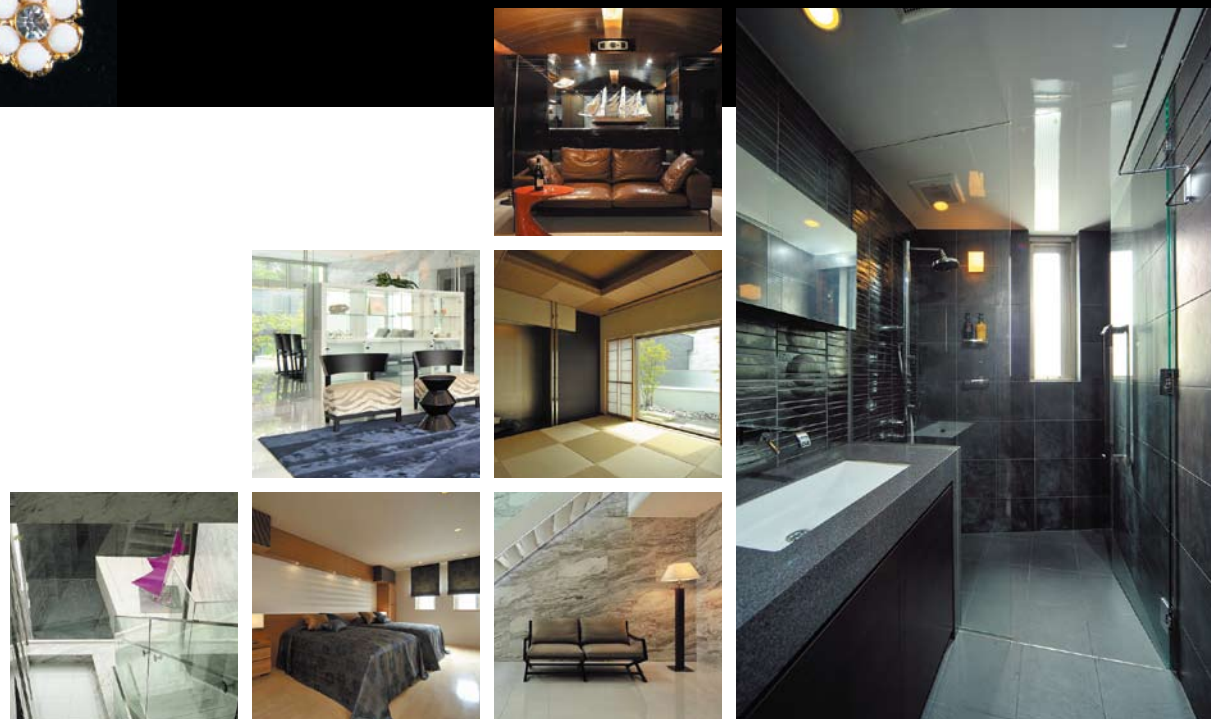


虹色に妖しく光るオパールのように
美しい家は多芸多彩





モダンを飛び越えて、もはや近未来的。
愛車をコレクションのように「ショーケース」に置いて、鑑賞の対象へするあたりも心憎い演出。
家は、住まう人の「感性のゆりかご」、「知性の代弁者」。
それは、饒舌に住まう人の自我を語りながらも、静かに、穏やかに空間を包み込む。



Design & Construction Data [東京都1邸 ●延床面積/391.27㎡]
アーネストアーキテツ TEL 03-3769-3333 [アーネストグループ](#) [検索](#)
●設計エリア/全国

